日刊 動労千葉

87. 6. 10

No.2572

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

「鉄道労連」空中分解

熊本で鉄労が動労に申し入れ

国鉄労働運動の解体と、自分達の延命だけを共通の目的として野合している鉄労と動労の矛盾が、四月以降一層深まりつつある。六月二日には鉄労熊本地本が動労熊本地本に対して「申し入れ」を行い、その中で、鉄労が動労に対して「不信」を抱いていることが露骨に書かれており、さらに矛盾が深まり、キレツは拡大することを示している。動労西日本結成に続き、全国で闘う動労の旗を守り、動労総連合へ結集せよ。六月二〇日、牛込公会堂へ結集せよ。

革マルへの不信まる出し

六月二日に鉄労熊本地本から動労熊本地本に出された「申し入れ」は、革マル松崎への「不信」で塗り固められている。

この中で、五月十六日の動労拝島支部長襲撃事件にふれ、「鉄道労連組合員の中に動労は革マル派ではないかとする不信が強まって」おり、「革マル派でないことを明らかにするためにも、動労として革マル派を徹底的に批判する文書（声明）を発表する考えはないか」と、動労革マルに迫り、松崎が革マルであるという一点をとらえて、〃絶対に信用できない〃ということをあけすけに語っている。

また、松崎個人に対しても「ボディーガードをつけないと行動できないようでは真の組合活動はできない」と鋭く弱点をついている。さらに「動労役員が機関決定を無視して強引に運営を進めようとしているとして、不信の声が出ている」と、機関運営でも対立し、組合事務所の扱いにいたっては「特定役員が常時同宿、同居している・・・組合活動を進めていく上で不都合だ」と、動労革マルの組合私物化に激怒している。

分割・民営化の内部から崩壊

この「申し入れ」に対して動労革マルは、さすがに答えることもできず、あせって全国に一切回答しないように連絡してしまった。

今回の鉄労熊本地本の「申し入れ」は、ただ単に熊本地本だけの話しではなく、鉄労志摩の本音をそのままあらわしたものであり、事実上鉄道労連―「一企業一組合」がすでに空中分解しているということなのだ。

つまり、鉄道労連だけを頼みにしていた「分割・民営化」自体が、その内部から崩壊しだしたということだ。

革マル松崎は、自らの延命のためにはさらに闘う労働者の背後から襲いかかるしかないのだ。

こういう連中が「一企業一組合」を標榜し「七五%を結集する」と言ったところで絶対にできるはずがないのだ。いまこそ鉄道労連と対決し、解体・一掃する絶好のチャンスだ。

動労西日本に続き、全国で闘いに起ちあがる時だ。

動労の七月解散を絶対に許すな。

「動労千葉とたたかう国鉄労働者をはげまし連帯する6・20集会」へ結集せよ。

動労西日本、ついに結成！動労革マルに痛打！
（6月7日、広島労働会館）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！